



須坂市社会福祉協議会

会長賞

行 っ て や る で、

待 っ て お い な よ

唐 沢 泉 (駒ヶ根市)

うちのおばあちゃんは、介護度2の“認知症”です。医者より「アルツハイマーの初期症状です」と言われてから5年が経ちました。それ以前に「単なる老人特有のボケです」と診断を受けたのと合わせると、約7年の年期入り認知症です。

そんなおばあちゃんの大大親友が、宮脇米子さん、通称「中田やのおばちゃん」です。息子同士が同じ歳なので、子育て時期からずっとずっと仲良くしてきました。中田やのおばちゃんは、右足の膝を手術していて生活に不自由なことがあるので、以前は畑仕事の手伝いなど、うちのおばあちゃんでもしてあげられることがいろいろありました。今では、草取り＝それも、抜いては困る野菜や花の苗を注意しながらしてもらう～という感じになってしまいましたが、それでも、「おばさんは、うちに来ていればいいでね。

泉ちゃ、うちによこしてよ」と言ってくれて、ほぼ毎日、何かしらの頼みごとを言っておばあちゃんを呼んでくれます。

なので、うちのおばあちゃんも「はいよ～、行ってやるで待っておいなよ」と電話で答えて、歩いて30mほどの中田やへ通っていきます。

そんな電話を切ったあと、私たち家族には「また呼んでくれたで、行ってやって来るでない。おばさんに頼まれちゃ断れんよ」「畑の仕事もくたびれるぜ」などと言いながら、自分が見守られにいくなどとは微塵も思わずに出かけていくのです。本当にありがたいことです。

中田やのおばちゃんは、おばあちゃんを見守ってくれるだけじゃなく、お昼ご飯をくださったり採れた野菜をくれたり、煮物漬物など、色々くださり「わしも、おばあさんが来てくれると嬉しいでない」と言ってくれます。時々私たちがお礼のお菓子や果物を持って行こうとすると、うちのおばあちゃん曰く「わしだって、いつも何かしら持っていったるぜ。だし、わしがよっぽど手伝ってやってるもんでいいのえ」と言います。認知症：介護度2のおばあちゃんは、プライドを失くしていない！もっている！すごい！と感じるときです。そんな風におばあちゃんを生かしてくださっている中田やのおばちゃんに感謝！感謝！です。

我が家は、三叉路の道沿いにあり、おばあちゃんが日中一人で畑に行ったり来たりする姿が、割と広い範囲から見

てもらえます。

すぐ北隣りの屋号“店”のお家には、旦那と同じ歳の息子夫婦とその父母がいて、店のおいちゃんとおばちゃんは野菜作りを仕事にしているので、日中もおばあちゃんの見守りをしてれています。「おばさ～ん、いい天気だなえ」「おばさ～ん、もう夕方だで家に入らんかい？」などと、見かけると声をかけてくれます。

その店の東隣りの“宮脇さん”は、「お婆さんは、私が子育てする間いつも色々面倒みてもらったから、ずっとここにいてほしいよ。泉ちゃん、協力するで頑張って」と言ってくれました。宮脇さん夫婦には3人の子供たちがいます。既に家を離れて学校や就職などしていて、時々帰って来ると必ずと言っていいくらい「お婆さ～ん、顔見にきたよ、元気だった？」と、家に訪ねてきてくれます。その時はすごく喜び、名前も思い出すこともありますが、やはり一瞬で、後から話はしてもらえません。でも、とてもいい顔をします。

我が家の西隣りは新婚の若い夫婦で、越してきたのが最近なので、おばあちゃんは覚えられませんが、奥さんの話では「おばあちゃんは、いつも私たちに好くしてくれるし優しい声をかけてくれるので、出来ることがあればしますから、言ってくださいね」とのこと。ありがたいです。このご夫婦にも、そしておばあちゃんにも。家の極ご近所4件から東に100m位離れて5件のご近所も同じ常会で、昼間家に人が居る家ばかりです。少しずつ変わってしまうう

ちのおばあちゃんを気にかけてくれて見守ってきてくれました。

去年の収穫祭（忘年会）の常会で、改めて「認知症になってしまったおばあちゃんをどうか皆さんで見守ってください、お願いします」と話すと、「泉ちゃん、言ってくれてよかった。気にはしてたけど勝手に昼間訪ねていってもいいかどうかと思ったりして、少し遠慮してたけど頼まれれば行くでね、見るでね」と言ってくれました。

おばあちゃんから見れば、今までと少しも変わらない様に接してくれる皆さんは、暖かくて優しく心強い介護スタッフです。

我が家の隣の常会に、おばあちゃんの妹＝春ちゃがいます。2歳年下の実の姉妹なので、おばあちゃんが元気な頃は、電話で「それじゃあこれから家を出るで、堤防で出逢いをしまい」と言い合って、新宮川沿いの道の途中で出逢いをして、煮物や漬物や採れた野菜などを渡したり受け取ったりしていました。

今は、おばあちゃんと私の一番の理解者です。「泉ちゃ頼むない。和ちゃがこんな風になっちまって詰まらんけど、わしも一緒に見るでない。ほいだけえど、一番大変は泉ちゃえ。ご苦労だけ

えど頼むなえ。」と激励してくれます。休日には時々「お湯に行かまい」と誘ってくれて、おじちゃんの運転でおばあちゃんを温泉に連れて行ってくれま家のおばあちゃんに

逢いに来るだけでなく、おばあちゃんの大大親友の宮脇さんにも「和ちゃが世話になるない」と言ってお茶に呼んだり御礼をしたりしてくれています。ありがたいことです。

春ちゃおばさんと宮脇さんとおばあちゃんがいて、お茶を飲みながら他の人達と話をしているのを見ていると、実に上手い調子におばあちゃんと笑い合っています。

おばあちゃんは、台の上のお菓子や漬物など「お食べやれ、もっとお食べ」と言ってどんぶりを人に向けるのが常です。「もう沢山だよ、ありがとうね」と応えているおばちゃん達も、繰り返し繰り返し勧めるおばあちゃんをみて呆れてきたので「こりゃあ、おばあさまの所作（動作や言動）を見ておった方がご馳走だ！」と、春ちゃおばさんが言うと皆で大笑い！もちろん、おばあちゃんも楽しそうに笑っています。「春ちゃは上手いこと言うない」と、妹を褒めるのは照れるけど・・・というようにおばあちゃんが言うと、「中原（家の屋号）のおばさん、ちっとも可笑しくなっていないぜ！」と一人が思わず声にして、「そうなら良いのになあ、そうだったら良いのになあ」という、声にならない空気に包まれます。こんな時、ずっとずっとこのまま家で暮らしていこうね！おばあちゃん！と思わずにはられません。

